

〈犬の幸せ、犬と幸せ〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

犬は動物の中でも映画に登場するこ
とが多い。ドキュメンタリーより劇
映画が多いのは、それだけ人間との絆が
強く、賢くて演技がでたり扱いやすい
からだろう。今年も少女少女と犬の感
動物語が何本も公開された。

だが、ドキュメンタリーである本作で
は、犬を取り巻く深刻な現実が浮き彫
りにされる。人間に愛されて飼われてい
る幸せな犬ではなく、捨てられたり災害
で行き場を失った犬や猫の実態と、そう
した犬猫を何としても救い出そうと奮
闘する保護団体やボランティアの活動
に光を当てている。犬好きで家中に何匹
も飼い、鳴き声や臭気など環境問題で
近所迷惑な困った住人が、マスコミ
でトビックとして取り上げられること
はあるが、本作ではきちんと実態を踏ま
えながら、犬への愛情と客観的な視
見つめ、これからの展望する総合的な視
点に立つ。

山田あかね監督は、二〇一〇年に愛
犬ゴールデン・レトリバーを重い病
で喪い、悔恨の思いからイギリスへ行
き、犬の保護施設や動物病院を訪ね歩
いた。帰国後、訪ねた先輩の渋谷昶子監
督から「そこまでやるなら、映画にすべ
きよ。何のために映像の仕事をしてきた
の？」と言われたのが、本作を作るきつ
かけになった。取材を始めて四年間で
二〇〇時間の映像がたまった。

テレビの仕事で俳優・小林聡美と出
会ったことで、山田監督の分身のよう
なテレビ・ディレクター久野かなみ(小
林)を主人公としたドラマの形でドキュ
メンタリー部分を構成、映画は新タイプ
のドキュメンタリードラマとなった。小
林は、犬猫の置かれた厳しい現実を衝撃
を受け、揺れる取材者の気持ちをリアル
に表現している。

日本では、二〇一三年度現在、一日に
三五〇頭、一年間に二二万八二四一頭

の犬と猫が殺処分され、そのための費
用は年間約五〇億円という。二〇一二
年の「動物愛護法」の改正後も、新たな
飼い主への譲渡は実際には引き取り数
の一八・七%に過ぎず、残りは殺処分さ
れている。映画の中でかなみは「動物愛
護センター」で殺処分を待つ犬の表情
や、二〇一一年の東日本大震災後、福島
の原発二〇キロ圏内に取り残された名
前のない犬猫の姿を目の当たりにして
ショックを受ける。

しかしまた、過酷な状況の中で一頭
でも多くの命を救おうと奮闘する人々
もいる。犬猫の里親探しをする保護団
体「ちばわん」(千葉)では、崩壊したプ
リーダーの店や愛護センターからこれ
までに五〇〇頭以上の命を救ってき
た。「犬猫みなしご救援隊」(広島)は、
シェルターに救い出した一〇〇〇頭以
上を保護している。震災後、福島原発
二〇キロ圏内から一四〇〇頭を救い出
した。

犬と飼い主の絆、保護犬を受け入れ
る老人ホームでの老人と犬の愛情あふ
れる姿…。「犬の幸せはどんな人と出会
うかで決まる」との監督の言葉が素直に
心に響く。



『犬に名前をつける日』

日本映画(107分)

監督：山田あかね

出演：小林聡美、渋谷昶子、上川隆也ほか

公開中

© スモールホープパイプロダクション